

よこはま都市消防



公益社団法人 横浜市防火防災協会
Yokohama Disaster Prevention



新消防本部庁舎と横消ヘリ 写真：近藤美樹さん

60号

1 4 7 10月

| 2023 | Autumn |

目次／フォト収集 1

消防車は語る(第14回) 2
 消防救援(牽引)車 フォードカーゴトラック4×4改

横浜消防の近代史 3~4
 慶応の大火と消火活動

令和5年度 防災セミナー開催報告 4

「減災新聞」の視点 5~6
 問われる 100 年の先

防災の取り組みにアシスト 7~8
 地震動の体験装置から何を学ぶか

特別寄稿
 地震・火災を想定した
 シナリオ非提示型・図上訓練の勧め 9~12

人的エラーからの脱却 Ⅷ 13

令和5年度 防災功労者表彰 14

横浜消防トピック 119 15~16
 消防士の被服等を改良!!
 新消防本部庁舎開庁!!
 危険物関係表彰

好評連載 17~18

- 新約消防白書 気遣いと放火防止
- コラム 妄言多謝
- 横浜路地裏日記
- わたしのベストショット
- 私の(好きな)日本酒

私の趣味 NO.6 19
 山登りも治療のうち?・・・リハビリ登山と温泉 No.2



画：渡邊 雄二

「フォト収集」#24

花

赤麦
 撮影地：北海道美瑛町
 作者：M・N

鉄道

只見線紅葉
 撮影地：福島県
 作者：中久喜保

山

奥多摩、秋日和
 撮影地：東京都
 作者：武笠基和

鉄道

八瀬比叡山口駅
 撮影地：京都府
 作者：有賀太重

横浜

壁面緑化その1
 撮影地：横浜市中区山下町
 作者：天野義照

消防救援(牽引)車 フォードカーゴトラック4×4改

イラストの消防車は、1946年ころから1960年ころまで使われたレッカー車です。

車体は第二次世界大戦中米陸空海軍で後方多用途車として活躍したカーゴトラックです。

貨物輸送・弾薬運搬・給水・給油・故障車牽引などの作業に充てられました。わが国では戦後の自動車不足の中で林業・漁業・農業の運搬作業に活躍しました。

消防への供与は主に当時の十大都市の消防本部に供与されたようです。終戦直後の自動車事情は非常に悪く、エンジン故障は普通のことでした。災害出動中の故障は、衆人の視線を浴びて、乗員は居ても立っても居られない心境で恥ずかしく苦痛なことであったと聞きました。いち早く故障現場に駆け付けフックで前輪を持ち上げドーリーを差し込みそのまま立ち去る。『地獄で仏』と何人もの先輩が口にしていました。

町の中でも子供たちから『鼻ベチャ』『ブルドッグ』などと愛称で呼ばれ人気がありましたが出動が少なく、なかなか見るができなかったようです。

エンジンボンネットが運転席の隣にあり、キャブに一部がめり込んでいるセミキャブオーバータイプ(現代のセミキャブオーバー形式とは若干異なる。)で斬新なスタイルに見えたのでしょう。このトラックの性能は故障が少なく扱いやすく「さすがフォード」と関係した先輩は絶賛していました。私が採用された1965年には廃棄を待つ待機車として消防局の裏庭に置かれていて、新任の私に「横浜消防の何かを引き継げ。」というような風格をもらいました。

エピソード

車両性能や操作性はフォードらしい個性をもっていました。左折は左ハンドルで楽なようですが、セミキャブオーバーの特徴を理解しないとタイミングが合わずコーナーを踏んでしまうことになり、左折に失敗すると特に長物の化学消防車やはしご消防車をけん引しているときは電柱や信号柱に抱き着いてしまい大変な手間がかかったそうです。「消防局の車両係の自負や周囲の畏敬の念を背負っているプライドに反省と教訓の自覚を突き付けられた。と受け止めた。」と、振り返っていました。感慨深げに先輩は語ってくれました。

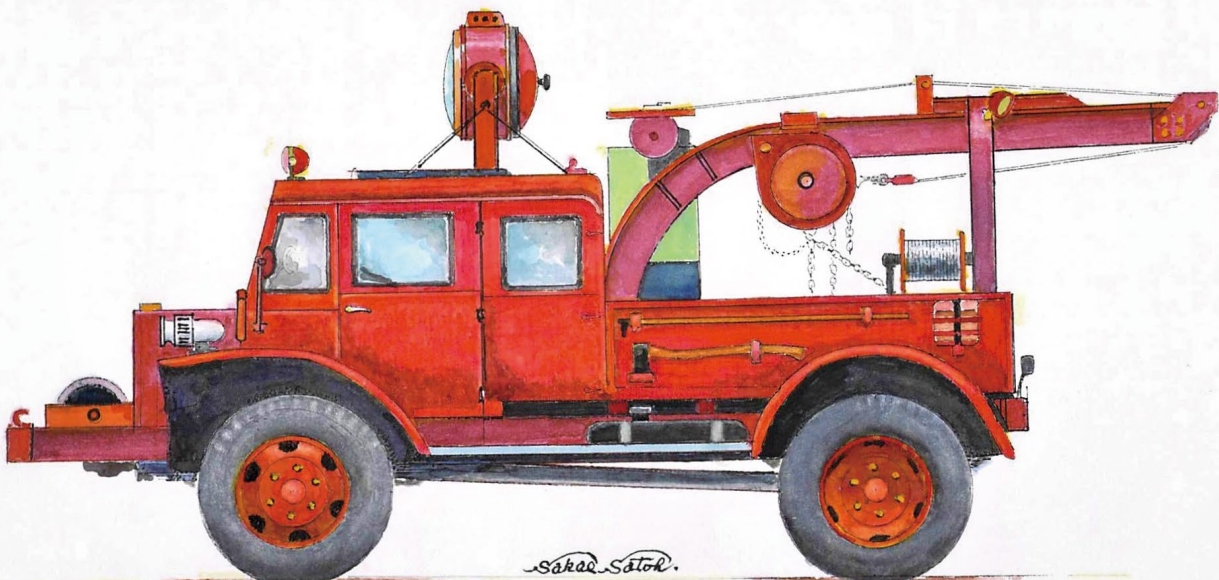
『老兵は死なず消え去るのみ。(D.マッカーサー)』
威厳のある車でした。



がもん
防災・生活安全 我聞塾
桐蔭横浜大学 客員教授

佐藤 栄一

イラストのサインSakaeは栄一の 榮 で高校時代から使用しています。



Sakae Satoru.
画：佐藤 栄一

横浜消防の近代史

横浜都市発展記念館

主任調査研究員 吉田 律人

慶応の大火と消火活動



THE MAIN STREET OF YOKOHAMA DURING THE GREAT FIRE.

消火活動にあたる人々 チャールズ・ワグマン画 『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』1867年2月9日付
横浜開港資料館所蔵

慶応の大火時の消火活動が描かれている。帯刀が確認できるので、左側や中央に描かれているのは神奈川奉行所の武家火消だろう。役人の指示を受けた人足が桶と鳶口を利用して消火活動を行っている。また、その後ろには梯子と鳶口を担いだ一団が確認できる。おそらく家屋の破壊にむかっているのだろう。

1866年11月26日(慶応2年10月20日)、港崎遊廓近くの末広町から始まった火災は、強風に煽られて急速に燃え広がっていった。開港前まで駒形町(現在の横浜開港資料館所在地)に住んでいた田辺嘉平治は『横浜貿易新報』の連載「開港側面史」(1908年11月18日)において次のように回想している。

慶応二年の恵比寿講(十月二十日)の朝、今で申たら九時頃、夫れ火事だと申すから此元町から駈て往て見ますと、火元は末広

町の豚屋の鉄五郎だと申すに、最早町会所が焼けて居ますから運上所へ駈付ると此所も焼けて居ます。此日は南風が強く吹て、飛火がする、消防夫はないと云ふ始末ですから、運上所の庫も戸前をも打たずに焼いてしまひました。火は其日一日横浜中焼き廻って、夕方に成って風がならひ[北風-引用注]に変て漸く鎮火しましたが、戸数では何戸焼けましたか、当今の様調べもないから分かりませんが、横浜八分は焼

けた大火事で、其火の早かった事は三十二年の大火〔雲井町大火―引用者注〕より烈かったです。

ここから①出火から鎮火まで多くの時間を要したこと、②南風の影響で火の回りが早かったこと、③市街地の大部分が焼けたこと、④町会所や運上所などの施設が失われたことなどがわかる。また、嘉平治は大樹「たまくす」（横浜開港資料館内に現存）についても、「字駒形と申して楠や榎の大木が何本も有りましたが、慶応の大火事に焼て枯れてしまひました。其切株から楠は芽を生じまして、今は直径一尺余に成て居ます」と述べている。慶応の大火は開港以来形成されてきた街並みを僅か一日で焼き払った。

この火災に対し、山手に駐屯したイギリス軍やフランス軍が出動したことは本誌第57号でも述べたが、外国人の消防隊、神奈川奉行所

や各町の火消組も出動して消火活動にあたった。また、東海道筋など近隣の村々からも応援が駆けつけている。例えば、生麦村の名主・関口家の日記には、「港崎町土手通り本町四丁目より異人館迄類焼、異人館之儀は夜四つ半時頃迄焼、当村鶴見よりも火防人足横浜町へ罷出候」と記されている（横浜市文化財研究調査会編・校訂『関口日記』第16巻、横浜市教育委員会、1980年、39頁）。だが、そうした応援にもかかわらず、火の勢いは衰えず、港崎町の遊郭をはじめ、市街中心部は焼き払われていった。

火災に対する有効な手段がないなか、イギリスの工兵隊は海軍の指示で爆薬を使用した破壊消防を展開、フランスやオランダの抗議を受けつつも、延焼の拡大防止に成功した。午後10時頃、人々の努力によって火災は鎮火、最終的に横浜の市街地の大部分は焼失したのである。

令和5年度 防災セミナー開催報告



会長あいさつ



会場の様子



日 時 令和5年8月21日(月)
15:00～16:30

場 所 神奈川中小企業センタービル

演 題 横浜消防の関東大震災
～大火災に立ちむかった人びと～

内 容 ① 関東大震災以前の大規模火災と横浜消防の対応
② 関東大震災の発生と横浜消防の活動
③ 関東大震災と消防の教訓

参加者 83名



講師：公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団
横浜市都市発展記念館
主任調査研究員 吉田 律人氏

「減災新聞」の視点

神奈川新聞論説委員 渡辺 渉



今も37橋が残る「震災復興橋梁」の一つ、新田間橋＝8月、横浜市西区

問われる100年の先

「昭和二年七月竣工」。夏の強い日差しを浴びて、銘板が鈍く輝いていた。

横浜駅西口の近く、新田間川に架かる「新田間橋」(横浜市西区)。桜木町方面と新横浜方面を結び、人や車の往来が激しいその橋は、横浜に今なお残る「震災復興橋梁」の一つだ。関東大震災が起きた1923(大正12)年の4年後、1927(昭和2)年に完成した。

子どもの頃から何度も通っていたが、それが関東大震災を受けて架けられた橋とは認識していなかった。復興橋梁といえば、震災時の被害が大きかった大岡川沿いを中心として中区や南区に多いが、神奈川区や磯子区にも点在する。市によると、実に37橋が今も市民の暮らしを支え続けている。

震災当時、主流は木橋だった。しかし、横浜の市街地を襲った大火で焼け落ち、人々は川向こうへ逃げられなくなった。その教訓から復興橋梁は耐震・耐火構造とし、親柱やアーチなどの意匠も凝らした。そうした橋の数々が今、個性的な水辺の景観をつくり出してもいる。

若手記者と手分けしてそれらを取材し、人知れぬ「復興遺産」の役割の大きさに気付かされた。そう、関東大震災の記憶をとどめる場所、その手掛かりを示す現場は身の回りにいくつもあるのだ。その由来や歴史を気に留めることのないまま、日常的に利用しているに過ぎない。

がれきを埋め立てて整備した山下公園、震災をくぐり抜けた神奈川県立歴史博物館や横浜市開港記念会館。それら著名スポット以外の、身近な生活空間に残る「震災ゆかりの場」にもっと目を向ける必要があるのではないか。震災の取材を続けながら、あらためてそう感じている。

もちろん、そうした場所に注目する動きはある。昨秋あたりから震災関連の石碑や遺構などを訪ねる「まち歩き」や「ガイドツアー」がたびたび実施されており、一定の反響と広がりを見せている。しかし、地図上の案内表示や現地での解説は十分といえず、モデルコースが定められているわけでもない。

震災100年の節目に合わせて9月を中心に各地

で行われた展示やシンポジウムなどと同様、一過性の企画で終わってしまいそうな懸念もないわけではない。観光も兼ねたコースとして定着させる仕掛けや工夫がもっとあっていいはずだ。

100年の歳月は長く、重い。体験者の言葉に耳を傾ける機会は大きく減った。

一方でこの間、新たな災害が次々と発生し、関東大震災を含む過去の災禍は常に風化にさらされている。そうした中で、いかにその教訓を語り継いでいくか。先人が残した記録を地道に読み解き、現場に足を運びながら、記憶を紡いでいくしかない。

2004年の新潟県中越地震、2011年の東日本大震災、さらに2016年の熊本地震など近年の地震災害では、被害の現場や地震の痕跡を「震災遺構」として意識的に残す取り組みがなされた。ミュージアムなどを整備し、被害や復興の状況を学べる「回廊」として各施設や現場をつなぐ試みも展開されている。また、「平成最悪」の豪雨災害となった2018年の西日本豪雨では、過去の水害について刻んだ石碑の存在が被災地で注目され、国土地理院がウェブサイト「自然災害伝承碑」を紹介するきっかけにもなった。

ただ、忘れてはならないのは、記憶継承に向けた取り組みは関東大震災においてもかなり実践されていた、ということだ。



駅のホームなどが沈んだ海に向かって読経する僧侶とダイバーら＝9月1日、小田原市根府川

100年の節目を私は小田原市根府川で迎えた。列車と根府川駅のホームなどを海へ押し流す「地滑り」と、川沿いの集落をのみ込んだ「山津波」の現場が近接し、遺構や石碑が多数残っている。駅前の海ではこの日、追悼ダイビングが行われ、山津波の犠牲者の名を刻んだ供養塔が立つ地元の寺では、住職らによる法要が営まれた。

被害や供養、復興の状況や思いを刻んだ石碑は神奈川県内の各地に存在する。後世に伝えるために保存されてきた現場や遺構も少なくない。

これらをどう次代に引き継いでいくか。とりわけ被害が甚大だった横浜は、継承の取り組みをリードし、学びの場を積極的に提供する役割が求められる。問われるのはむしろ、これからだと思う。

直し、教訓を今の備えに生かすことも目指している。東京や横浜を中心に10万5千人余りが犠牲になった1923年(大正12)年の関東大震災は、今年9月で発生から100年の節目を迎え、横浜を中心に県内各地で関連行事が数多く企画された。そうした動きも取り上げながら、発生が懸念されている首都直下地震や南海トラフ巨大地震、

毎年のように起きる風水害、箱根山や富士山の噴火に備えようと、国や自治体、専門家、NPOや自治会、学校、企業などの取り組みを追い掛けている。「知る」ことは「備える」ことの第一歩。「わがまち」で起きる災害を見据え、その被害を少しでも軽減する手だてをともに考える紙面を目指している。

地震・津波や火山噴火、気象災害などの対策や現状、課題などを伝える神奈川新聞の防災のページ「減災新聞」は、東日本大震災後は、

2011年7月にスタート。今年1月からは毎週月曜日に掲載しており、これまでの発行回数は600号を越えた。過去の災害を見つめ

「知る」ことは「備え」の第一歩

減災新聞

被害軽減の道標を目指す
「減災新聞」

第8回

防災の取り組みに アシスト

地震動の体験装置から 何を学ぶか

地震動を体験することができる起震車や起震装置は全国に普及しており、消防署の防災指導や各地の防災センターで体験したことがある方は多いと思います。

起震装置の先駆けとなった起震車は、昭和50年6月に横浜市消防局が全国で初めて開発したもので、その反響は大きく、オークランド市に派遣されたり、銀座でも披露されたりしました(写真1)。

現在では、過去に発生した地震動が忠実に再現されたり、長周期地震動も体感できるものもあります。

今回は最新の起震装置によって何を学ぶか考えてみます。

実際の地震との違い

起震装置は、実際に発生した地震の揺れと共にイメージ映像等が映し出されるものも多く、臨場感に溢れより実際に近い状況を体感することができます。

写真1 銀座で披露された起震車



しかし、やはり実際の地震とは異なるところがいくつかあります。最も大きな違いは、揺れが来ることを予告されていることです。大きな揺れが必ず来ることが体験前に分かっていますから、開始される前から身構えて臨むこととなります。

また、実際の地震時のように建物構造が崩壊したりすることはなく、身の回りの家具等が転倒して自分に危険が及ぶこともありません。窓や食器棚のガラスが割れることもなく、不安を煽るような大きな音も発生しません。

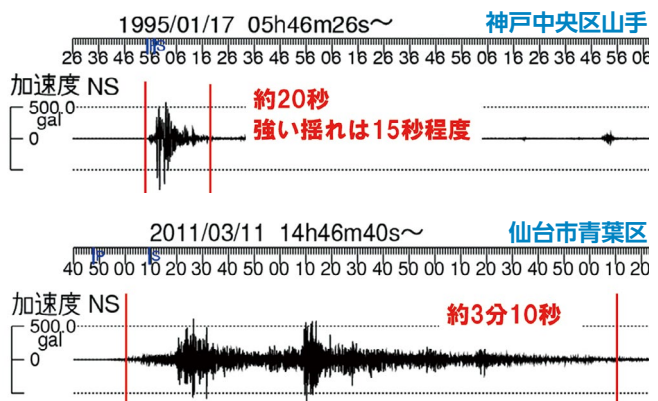
つまり、いつ発生するか、それが大きな揺れかどうかということがある程度分かっている、しかも地震動によって発生する周辺の異常な変化に対応する必要がなく、ケガをすることもないという安心感の中で体験することになります。でも、起震装置により地震動を体験することはいくつかの大きな意味があります。

起震装置ではこんなことも

起震装置で学ぶべき重要なものの一つは、実際の揺れの大きさを体感し、揺れが大きい時には立ち上がることも一步を踏み出すこともできないということを体得することです。これにより地震時には身の安全の確保が第一であることを学ぶことができます。

でも他にも大切な事があります。プログラムされている地震の中には、阪神淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震や東日本大震災の東北地方太平洋沖地震がありますが、この二つの地震は波形が全く異なります(図1)。いずれも加速度の大きさに大きな違いはありませんが、兵庫県南部地震は内陸型の地震で、突然大きな揺れが来て、揺れる時間は10秒~20秒と短いという特徴を表しています。内陸型の地震は、そ

図1 内陸型地震と海溝型地震の波形
(気象庁資料から作成)



の被害が20～30 km程度の地域に限定され、緊急地震速報が間に合わないことが多くなるといったこともあります。また、東北地方太平洋沖地震は海溝型の地震で、初めは小さな揺れが続き、その後に大きな揺れがあって、揺れる時間は内陸型の地震と比較すると長いという特徴があります。この地震では被害が広い範囲に及ぶため、緊急地震速報の効果が大きく発揮されます。

そして、海溝型の地震の場合は、津波を伴うことがありますので、海溝型の波形、つまりこの揺れ方の時間分布の特徴が頭に入っていれば、海岸にいる時などに、気象庁が発表する津波注意報や津波警報を待たずとも、津波の発生を疑って少しでも早い避難行動を開始できるということになります。

気象庁の津波注意報等の発表目標時間は、津波の到達までの時間が極めて短かった1983年の日本海中部地震及び1993年の北海道南西沖地震を経て、15分から約7分、約3分と短縮されています。ただ、1分でも早く察知して避難を開始できれば、避難する距離は数百mか違いが出てきます。

「津波の心配はありません」は、 どうして分かるの

地震が発生すると、気象庁から津波について発表され、もし津波の発生の可能性がなければ、「津波の心配はありません」というコメントが発表されます。津波は海底面が変動して起こりますので、原則として震源が海底であることが発生の条件となりますが、津波の発生をどうやって迅速に判断しているのでしょうか。

一般的に、水面から海底までの距離は、日本の周辺海溝の最深のところでも10 km程度ですが、これよりもかなり深い地中で地震が発生すると、その変動が海底に現れない場合があり、その際には津波は発生していません。これまでは、震源がおおよそ100 kmより深い地震やM6以下の地震では被害をもたらすような津波は起きていないとされています。実際のところ、近年大きな津波が発生した地震では、いずれもその規

図2 津波の発生した地震と震源の深さ

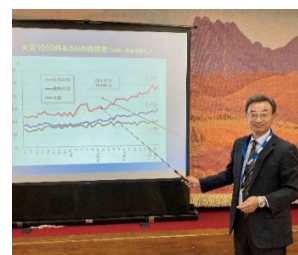
名称	発生年	規模	震源の深さ
大正関東地震	1923年(大正12年)	Mj7.9	23km
昭和三陸地震	1933年(昭和8年)	Mj8.1	10km
昭和東南海地震	1944年(昭和19年)	Mj7.9	40km
日本海中部地震	1983年(昭和58年)	Mj7.7	14km
北海道南西沖地震	1993年(平成5年)	Mj7.8	35km
東日本大震災	2011年(平成23年)	Mw9.0	24km

模はM7を上回っており、震源が比較的浅いところで発生しているのが分かります(図2)。

津波の発生の可能性には詳細な計算が必要になりますが、地震が起きた時にその都度計算をしていたのでは迅速な発表に間に合いません。そこで、海底の観測網を充実し、これまでのデータ等を踏まえ、予め様々な規模の地震をシミュレーションして津波の発生を計算してデータベース化し、これを元に津波の発生の有無を予測しています。そして津波の発生の可能性が低ければ「津波の心配はありません」というコメントが公表されることとなります。

【まとめ】

今年には日本海中部地震が起きてから40年の節目の年になります。この地震では104人の方が亡くなりこのうち100人が津波の犠牲となり、社会見学のため海岸で昼食中だった小学生も津波に襲われて13人の尊い命が失われました。こうした痛ましい災害の教訓を忘れないためにも、起震装置を体験する時には、できれば内陸型・海溝型地震の二つを体験し、地震の大きさだけでなく揺れの時間分布を感じてその違いを体に覚えさせることができれば、いざと言う時に地震と津波から身を守ることにつながるようになります。



小野 和夫



講習日程の確認はスマートフォンでもラクラクできる!

パソコン、タブレット、スマートフォンなど、異なる画面サイズの端末に合わせてホームページを表示できるので、閲覧も操作も格段に向上しました。また、コンテンツが一体化され内容・デザインの統一をはかり、URLも一つになりました。



当協会では防火防災の各種資格取得講習を実施しています。

- 救命講習
- 防火管理者・防災管理者取得講習
- 自衛消防業務講習
- 危険物取扱者受験準備講習
- 患者等搬送乗務員講習

<https://ydp.or.jp>

地震・火災を想定した シナリオ非提示型・図上訓練の勧め

防火管理者必読



株式会社 京急百貨店
危機管理担当 土橋正彦

【はじめに】

かねてより京急百貨店でもシナリオ非提示型・図上訓練をやってみたいと思っていました。今回、統括管理者（自衛消防隊長）の人事異動があり、この機会を捉え、特に訓練の主眼（目的）を地震発生時における統括管理者等が行うべき初動対応の優先事項とお客様の避難誘導に重点をおいて、百貨店の消防計画を基にシナリオ非提示型・図上訓練のシナリオを作成し、訓練を実施しました。

更に、訓練の様子はビデオ撮影を行い、訓練終了後にその映像を見ながら参加者全員による検討会（振り返り・検証）により、訓練や消防計画の検証及び意見交換を行いました。

【シナリオ提示型・行動訓練とシナリオ非提示型・図上訓練の目的と相違点（メリット）】

そもそも消防計画に基づく消防訓練は、シナリオ提示型・行動訓練が基本です。防災管理対象物には地震発生を想定した避難訓練が課せられていますが、シナリオ非提示型・図上訓練を行わなければならないというものではありません。とはいえ、想定していない事象が発生した場合の初動対応や指示は、自衛消防隊長（統括管理者や防災センター所長）の力量や経験が問われるところです。ましてや、多数のお客様を交えた避難訓練等（行動訓練）を行うことは極めて困難です。しかし、シナリオ非提示型・図上訓練では、可能性のある災害・被害（シビアアクシデント）に対する疑似体験を通じて、統括管理者等の指揮能力向上が図れるというメリットがあり、その他一例として下表のような目的や相違点（メリット）についてご紹介します。

シナリオ提示型・行動訓練とシナリオ非提示型・図上訓練の相違点（メリット）

項目	シナリオ提示型・行動訓練	シナリオ非提示型・図上訓練
適した対象	防火管理者が必要な対象物	防災管理者が必要な対象物
主な参加者	災害時に活動する自衛消防の要員が、多人数参加して実施することが好ましい	統括管理者・本部班長・防災センター要員等災害時に指揮を執る要員が少人数で実施できる
目的	消防計画に基づく役割と任務に応じた要員の災害活動の基本を身に付ける	可能性のある災害・被害に対する疑似体験を通じて、統括管理者等の指揮能力向上を図る
適した訓練	消火・避難等の行動訓練	地震・火災発生に伴う初動対応の図上訓練
頻度	特定防火対象物であれば、年に2回以上	プレイヤー及び事象を変化させ、定期的 に実施
シナリオの周知	事前にプレイヤー（訓練参加者）に周知	コントローラー（進行管理者）のみ周知
検証	消防計画に基づく役割と任務の行動検証	実効性のある消防計画等に向けた検証

地震発生に伴い、いくつかの事象が同時多発的に発生したという想定シナリオ提示型・行動訓練を行うとなると、人的にも時間的にも多くの準備と調整が必要となります。しかし、シナリオ非提示型・図上訓練では、比較的少人数で短時間に訓練を行うことができ、事前の調整がほとんど必要なく、具体的な事象に特化した訓練と検証ができるというメリットがあります。

【シビアアクシデントを想定した事象】

シナリオ非提示型・図上訓練を行う場合は、現実的に発生する最多数の人員の避難について、可能性のある災害・被害を想定する必要があります。そこで、横浜市で想定されている地震（元禄型関東大震災等）規模の緊急地震速報を受信するところから始めました。

<想定>

- ・ 平日の午後2時半頃、多くのお客様（各階500人程度、計5000人）が来館中、震度6強の地震が発生、統括管理者をはじめ、防災センター要員等が災害対応の指揮を執ります。

<訓練の主眼>

- ・ 地震発生時における統括管理者等が行うべき初動対応の優先事項とお客様の避難誘導
- ・ 災害の疑似体験によりプレイヤー自らが判断し、的確な状況判断能力と指揮能力の向上

<訓練の手法>

- ・ 図上訓練（シナリオ非提示の災害想定に基づくシミュレーション訓練）とします。
- ・ コントローラーの指示等（事象の進展）は、パワーポイントと口頭によるものとします。
- ・ 次の①から⑪までの事象が、順序不同又は同時多発的に発生した場合、統括管理者及び防災センター要員等が優先して行うべき初動対応について、発言することによる回答とします。
- ・ プレイヤーが適切な対応ができなくても又は何も行動を起こさなくても、時間経過と共に次の事象に進行することとします。
- ・ コントローラーは、プレイヤーに対して訓練中にアドバイス・指摘はしないこととします。
- ・ プレイヤーの訓練行動については、訓練後の検証において、消防計画等の妥当性の確認と課題の抽出のため、参加者全員でビデオ映像を見ながら話し合いを行い、今後の参考とします。

地震発生10数秒前から地震発生後1時間程度経過するまでに百貨店で発生する事象と対応

事象①	緊急地震速報を受信した時の防災センターの対応
事象②	地震による揺れの最中での防災センターの初動対応
事象③	揺れが収まった直後に、火災ではなく、お客様が避難口に殺到した場合の対応
事象④	地震発生直後に外壁から看板等の落下物が確認された場合の対応
事象⑤	エレベーターに逃げ遅れ者が閉じ込められた場合の対応
事象⑥	地震により、火災ではなく、スプリンクラー設備の配管から水漏れが生じた場合の対応
事象⑦	統括管理者が防災センターに到着して、優先して実施する事項
事象⑧	負傷者が発生し、救出救護活動及び応急救護所を設定する場合の対応
事象⑨	地震の揺れが収まって、屋外に全館避難をさせるための判断
事象⑩	火災が発生した場合の初動対応
事象⑪	公設消防隊が到着した時の情報提供

【訓練時の事象に対する初動対応の検証結果】

今回の訓練後に統括管理者等を交えた検証結果についてご紹介しますが、誌面の都合上、訓練の手法やいくつかの事象における検証結果については省略させていただきます。

1 事象①②：地震発生に伴い、揺れている最中でも防災センターで優先して行うべき放送

緊急地震速報の受信から地震発生までの限られた時間で対応すべきことや、地震による揺れが生じている場合であっても防災センター要員の役割として、要員が自身の身体防護を図りながら防災センターの監視機能の確認と防火対象物全体に対して、「身体防護、エレベーターからの脱出・使用禁止及び火気使用設備・器具の停止する旨」について非常放送設備による放送を速やかに、簡潔で、聞きやすい速度で、繰り返し（2 s 回）行うべきだという結論に達しました。

また、テレビ等から得た地震情報を館内のお客様に対して安心情報として提供するとともに、監視カメラ等から得た状況を収集・分析して、後に到着する統括管理者等と情報を共有するため、発生した事象や初動対応について、時系列でホワイトボード等に記録することとしました。

2 事象③⑧⑨：揺れが収まった直後に、火災発生がなく、お客様が避難口に殺到した場合の対応、負傷者が発生、救出救護活動、応急救護所を設置する場合の対応、全館避難の判断基準

地震による建物倒壊の恐れがなく、火災発生がない場合、揺れが収まった直後に、防災センターから「この建物は倒壊の恐れがなく、慌てて屋外に避難することは危険です。従業員の指示に従って待機してください。」というパニック防止の全館放送を指示します。

その後、地区隊の従業員は、お客様を転倒物等の無い安全な場所に待機させ、負傷者の救出救護活動、応急救護所の設置・搬送を行います。

統括管理者が最終的に全館避難の検討を行う場合は、屋外の一時避難場所までのルート^①の安全を確保し、各階ブロックごとに、使用する避難階段の選択、誘導員の配置及び先導する誘導員を付ける等避難させる準備が整ったところから、順番に全館避難の指示をすることとしました。

3 事象⑥：火災ではなく、地震によりスプリンクラー設備配管から水漏れが生じた場合の対応

地震によるスプリンクラー設備配管の損傷で、水漏れが生じた場合は、配管内の圧力低下により一斉開放弁が作動して、受信機等はスプリンクラー設備の作動による火災表示となり、出火階直上階の火災鳴動が発報します。この場合、自火報の感知器が作動していないこと及び地区隊の情報提供又は本部隊の現場確認により、明らかに火災では無いことを確認した後、直ちにパニック防止と水損防止対策等を講じることとします。

スプリンクラーの誤放出による対応を
ホワイトボードに記録



・パニック防止の実施

火災が発生したと思い、避難しているお客様等に対して「火災ではない旨と直ちに避難する必要がない旨」のパニック防止の放送を指示します。

・水損防止対策

ポンプを停止し、水漏れの発生している階ごとにスプリンクラー設備の制御弁を閉鎖して、水漏れ箇所^②の下部にはブルーシート等により商品を防御するよう指示します。

・出火防止対策

屋内消火栓設備等の使用可能状況の調査を指示し、制御弁を閉鎖している階については、その後の出火防止の観点から消火器等の増設や巡回警戒による警備体制の強化を指示します。

4 事象①②⑩⑪：火災が発生した場合の初動対応、公設消防隊が到着した時

地震発生時に火気使用設備等を使用していたことから出火する事例は多く、緊急地震速報の受信段階で、素早く火気使用設備等(ガス、電気を問わず供給源を絶つ)を停止し、出火防止を図ります。しかし、揺れている最中に火気使用設備等の停止や初期消火活動を行う場合は、怪我をするというリスクが伴うことから、火災が発生している場合でも身体防護を第一に行動し、揺れが収まった直後に消火器等による初期消火を行い、延焼拡大を阻止します。なお、防災センターでは、火災の状況により本部隊初期消火班や出火階直下階の地区隊初期消火班の応援派遣を指示します。

地震時には、火災発生の有無に関わらず、いきなり自火報の感知器発報や火災発報が鳴動する場合があります。感知器発報では、「ただ今の感知器発報は、現在、係員により確認中である旨と今後の放送に注意する旨」の放送を行い、非火災であることが確認されれば、「火災ではない旨と避難の必要がない旨」のパニック防止の放送を行います。

一方、明らかに火災が発生していることが確認された場合の避難誘導は、直に出火階とその直上階のお客様や従業員に対して、防災センターから火災放送に加え、「火災発生場所と従業員の指示に従い避難する旨」と「負傷者の救出救護活動を実施する旨」の放送を行います。併せて、同時進行で排煙設備の作動（自動又は手動）を確認し、119番通報を指示します。

出火階とその直上階の地区隊避難誘導班は、防災センターからの情報を確認し、積極的にお客様への声かけや手助けをしながら、安全かつ円滑に避難できるよう誘導員を配置して、できる限り出火場所から離れた特別避難階段等に誘導します。また、地区隊長は、班員に負傷者の救出救護活動を指示し、逃げ遅れ者がいないことを確認させ、延焼防止と煙流出防止のため、手動により防火区画を形成させます。

統括管理者（防災センター）は、その他の階の避難については、原則として出火階より上階から避難させますが、消火活動や延焼状況を判断して、いつ、どこに、どういう指示をすべきかを考え、多数の避難者を混乱させないようにパニック防止を図りながらブロックごとに地区隊の誘導員の配置等を指示し、避難準備の出来た階から避難階段を選択して、避難開始の指示を行うこととします。

公設消防隊が到着した時点で、防災センターではホワイトボード等を活用し、出火場所、延焼状況、逃げ遅れ者、負傷者及びその他危険物品等の最新情報を提供します。

【おわりに】

多数のお客様を抱えている防火対象物にとって、震災時に特に気を付けなければならないことは、出火防止や火災発生後の早期鎮火は勿論ですが、それらに伴い、お客様が一斉に避難行動等を行うことによる二次災害防止です。地震発生に伴う事象は、必ずしも想定通りに発生するものではありません。そのため、防火対象物の関係者は、日頃からハード面の減災対策と発災を想定した消防訓練（シナリオ提示型・行動訓練）を実施することにより、それぞれの役割と任務に応じた災害時の活動の基本を身に付け、時には初期消火班や避難誘導班等の任務別部分訓練により発災時の初動対応の習得を行っています。その上で、統括管理者等の役割と任務は、災害時の現場活動を理解して、災害状況を的確に判断し、適切な指示を行うことで、パニック防止を図り、災害時の被害軽減を図ることです。そのため、シナリオ非提示型・図上訓練では、統括管理者等が行った「訓練時の対応」が、必ずしも「想定される対応」通りになることだけを検証するものではなく、「想定される対応」や現行の消防計画等が、実災害においても実効可能な対応であるものなのかを検証することが重要です。そこで、効果的な検証を行うには、定期的にシナリオ非提示型訓練を行い、訓練ごとに「訓練の主眼」を明確にし、「プレイヤーの経験等を踏まえた選定」に併せて「シナリオの内容」を考へることも重要で、シナリオの中にどのようなシビアアクシデントを発生させるのか、事前に防火・防災管理者等から情報を収集し、防火対象物の特徴、実態及び消防計画等を調査する必要があります。また、訓練後の検討で課題が抽出された場合は、実効性のある消防計画等へ見直しを行う必要があります。このように、シナリオ非提示型・図上訓練を定期的（1～3か月おき）に行い、その後の検証・防災対策の改善を重ねることが、更なる防災対策の強化に繋がると考えています。

参考までに（公社）横浜市防火防災協会では、シナリオ非提示型・図上訓練の実施にあたって、シナリオの作成やコントローラーの派遣について、コンサルタント業務を行っています。是非、シナリオ非提示型・図上訓練の実施に興味のある関係者は、相談されることをお勧めします。

火災発生時における段階的な対応の画面

15分
後

14:45: **余震発生**、10階飲食街から**プリアラーム発報**、その後、**火災発生表示**、地区ベルが10階と11階に火災発報鳴動

11

- 防災センター本部隊の指示及び活動
- 統括管理者の行動及び指示

- 14:45: 余震発生、身体防護放送は？
- 14:45: 10階プリアラームで、確認指示は？
- 14:46: 10・11階で**感知器発報**
- 14:47: 10・11階で**火災発報の鳴動**
(火災発生です、従業員の指示に従って、避難開始の放送)
- 14:48: 焼肉店で**火災が確認された**
- 14:48: **119番通報指示は？**
- 14:48: **消火活動の指示は？** 消火器、屋内消火栓使用可
- 14:49: **10階、11階の避難の状況は？**
- 14:50: **負傷者3名発生（気道熱傷）の搬送は？**
- 14:51: **排煙作動状況・防火区画の閉鎖は？**
- 14:52: **消火器、屋内消火栓による初期消火失敗**
- 14:53: **SP作動した。全館避難開始するの？**

災害の状況により的確な放送を行う

受信機にプリアラームの表示

火報：10階の火災感知器が作動しました。

放送：係員が確認しておりますので、次の放送に注意してください。

火報：火事です火事です。10階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。



「人的エラーからの脱却 IX」

リスクマネジメントコンサルタント

代表 岡田 康裕



近年、ヒューマンエラー関連の著作が新たな展開の中で出版されている。その内容の大きな特徴は、過去の著作と比較すると、より具体的そしてより実践的な内容に変化してきていることである。

借り物の理論に振り回されることなく、経験則として、品質不良、事故、トラブルのほとんどが、3H（初めて、変更、久しぶり）の折に発生していること、定常時には極めて少ないことに注目する方法である。具体的な対策が講じやすいと考えられ、様々な業界に応用することができそうである。

また、ヒューマンエラーの原因となる人間の特性に着目して、対策を講じる考え方もある。人間には、12の特性があるとされる。

- 1 無知、未経験、不慣れ
- 2 危険軽視
- 3 不注意
- 4 コミュニケーションエラー
- 5 集団欠陥
- 6 近道・省略行動
- 7 場面行動
- 8 パニック
- 9 錯覚、思い込み
- 10 高齢者の心身機能低下
- 11 疲労
- 12 単調

であり、それぞれに具体的な対策を講じる考え方である。

さらには、そのうちの2の危険軽視による不安全行動（リスクテイキング）に特化して対策を講じる考え方があり、注目すべき内容となっている。すなわち、人間行動からみた事故の二大要因としては、エラー（意図しないでおかすミス）と不安全行動（意図的なリスクテイキング）があり、どちら

も系統的には、ヒューマンエラーだが、心理的なメカニズムが異なっている。まじめで、責任感が強い人ほど、「自分がなんとかせねば」と頑張りすぎる傾向があり、結果として、責任感から「リスクテイキング」を行っている人、言い換えるとチャレンジしている人が、身近にいるのではないだろうか。リスクテイキングとチャレンジは、紙一重、表裏一体、清濁併呑せいだくへいどんのような関係性にあるが、実は、その背景にあるのは、多忙、トラブル、納期、品質、コスト、客からの要望などの現場のひずみであり、そこにこそ対策を講じる必要があるということである。

異なるベクトルからアプローチする考え方もある。経営戦略としてのヒューマンエラー対策という考え方である。安全活動は、企業のレピュテーション（reputation 世間の評判）を向上させる活動の根幹であり、安全活動を的確に行うことで、顧客や利用者の安全が向上するとともに社会が感じる安心も増大していく。安心はレピュテーションそのものであり、レピュテーションの維持向上が、企業ブランドの獲得につながる。あらゆる安全活動が、レピュテーションマネジメント、ブランドマネジメントに直結するという考え方である。

上記のいずれの考え方、方法論も人間工学理論の先にある希望を目指しており、着実な成果につながっている。



※岡田氏は当協会の専任講師を務めております。 ※「人的エラーからの脱却」は不定期に掲載いたします。

令和5年度 防災功労者表彰

防災功労者表彰の皆様



磯子



青葉

鶴見 神奈川 西 中 南 港南 保土ヶ谷 旭
 金沢 港北 緑 都筑 鈴木会長 戸塚 栄 泉 瀬谷

防災功労者表彰被表彰者一覧

区 別	被 表 彰 者 名
鶴 見	JFEエンジニアリング株式会社
神奈川	有限会社 長谷川塗装工業所 代表取締役 長谷川 秀樹
西	横浜油脂工業株式会社
中	日産自動車株式会社 本牧専用埠頭
南	株式会社 野毛印刷社 代表取締役 森下 治
港 南	横浜市住宅供給公社 上大岡総合管理事務所
保土ヶ谷	株式会社 トノックス 代表取締役 殿内 荘太郎
旭	タカナン乳業株式会社 横浜工場
磯 子	レイズネクスト株式会社
金 沢	株式会社 総合車両製作所
港 北	有限会社 きし善
緑	宝電機工業株式会社
青 葉	株式会社 イトーヨーカ堂 たまプラーザ店
都 筑	城田地所株式会社 代表取締役 城田 栄一
戸 塚	株式会社 日立製作所 デジタルシステム&サービス横浜事業所
栄	社会福祉法人 伸こう福祉会 特別養護老人ホーム クロスハート栄・横浜
泉	横浜油材株式会社
瀬 谷	小島造園株式会社 代表取締役会長 高橋 更一

(順不同・敬称略)

受賞された皆様におかれましては誠におめでとうございます。

消防士の被服等を改良!!

横浜市消防局 人事課

横浜市消防局では令和4年度より、消防士の活動服、保安帽(ヘルメット)、水防服(雨衣)、防火靴、執務衣(ポロシャツ)の仕様を変更しました。

今回の改良では、航空業界や建築業界といった他業種の技術を調査し、積極的に導入したことにより、機能性と安全性を大幅に向上させました。また、クールビズ・ウォームビズにも対応できるように被服の組み合わせを工夫することによって、快適性も向上しました。

これから街中で目にする機会が増えると思いますが、その時はちょっと注目してください。新しくなった被服を着て、心新たに皆様の安全・安心をしっかりと守っていきます。

【活動服】
ストレッチ素材と
立体裁断で
機能的に進化



【執務衣】
速乾性の生地で
快適性をアップ



【水防服】 全方位から組織名がわかるデザイン (災害派遣時でも横浜市消防局の活動をアピールできます)
*某大手航空会社の整備員の防寒衣をヒントにしました。(軽くて暖かいキルティング・フリース内装は、取り外し可能で、単体で着用可能)

【防火靴】
内装に
ゴアテックスを
使用し浸水しない



【保安帽】
大手ゼネコンの
技術を取り入れ
軽量化



危険物関係表彰

横浜市内で危険物を取り扱う事業所等が、関係団体から表彰されました。※敬称略

一般財団法人全国危険物安全協会理事長表彰



危険物関係事業所

住友電気工業株式会社
横浜製作所

関東甲信越地区危険物安全協会連合会会長表彰



諸設備の充実と 安全管理功労事業所

神奈川中央交通株式会社
戸塚営業所

新消防本部庁舎開庁!!

横浜市消防局 総務課



令和2年度から建設工事を進めていた消防本部庁舎が、今年7月末に竣工し、10月10日に開庁を迎えました。
今回は、新しくなった庁舎をご紹介します。

<エントランス>～2階

消防局本部庁舎に来庁される皆様をお迎えする場所です。

堅牢な庁舎を印象付けるレンガ調タイルの壁には横浜市消防局のロゴを配し、横浜市消防本部の玄関を飾っています。



<消防司令センター>～4階

横浜市内全ての119番通報を受信する、言えば、消防本部の中枢となる場所です。増加する119番通報に備え、指令台の増設や指令機器の操作性向上など、機能強化を図っています。



<飛行場外離着陸場(ヘリパッド)>～屋上

本市が大規模災害に見舞われた際に、ヘリコプターで他都市から派遣される緊急消防援助隊や救援物資の搬送などを、いち早く受け入れるための設備です。文字、色ともにロゴを使用することで「横浜消防らしさ」を表現しています。



一般社団法人神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰

特別功労



坂野 満
(前公益社団法人横浜市防火防炎協会専務理事)

優良危険物事業所

- ・伸和石油株式会社 ①
- ・豊国屋商店 ②
- ・株式会社東芝 横浜事業所 ③
- ・鈴江コーポレーション
新杉田埠頭倉庫営業所 ④
- ・株式会社オーバル 横浜事業所 ⑤

優良危険物取扱者

- 宇佐美 圭吾
(宇佐美商事株式会社 根岸橋給油所) ⑥



新約消防白書

気遣いと放火防止

インバウンドの復活で、訪日観光が回復している。訪日外国人は、日本の第一印象に、ゴミのない清潔な環境、治安の良さ、礼儀正しさなど我々の日常の風景をあげる。また、一回の青信号で3000人歩行者がぶつからずに通過する渋谷スクランブル交差点の光景は、訪日観光客の注目する人気スポットである。

歩行者は、お互いに相手の動きを察しながら往来する。これは、幼い時から聞かされた「人様に迷惑をかけない」という教えが、習い性となり、無意識の内に人様を気遣い、察知するよう習慣づけられている行動なのかもしれない。

かつてイザヤ・ベンダサン^{*1}が、日本人は安全と水がタダで当たり前とっていると指摘した。確かに飲食店ではタダで水が提供されるが、飲み水^{*2}は

タダでは出来ない。安全もまた然り。

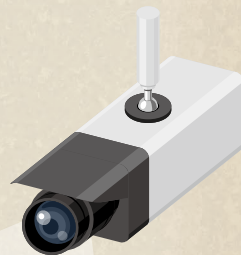
令和4年に、昭和60年から27年間連続して出火原因の第1位であった「放火(疑いを含む)」が、減少し、第2位となった。

その背後には、防犯カメラ・防犯ライト等の設置の普及に加え、家の周辺に燃えやすいものを置かない、死角をつくらないなどの気遣いのネットワークを基にした放火防止の環境づくりにあったに違いない。

訪日外国人が注目する治安の良さの背景には、人様への気遣いがあり、その気遣いの文化は長い年月の中で醸成され、脈々と受け継がれ、安全な社会を形成する素となっていると思っている。更に、それが、放火の減少へ繋がればと期待しているのだが。(K)

*1 イザヤ・ベンダサン著「日本人とユダヤ人」1971年

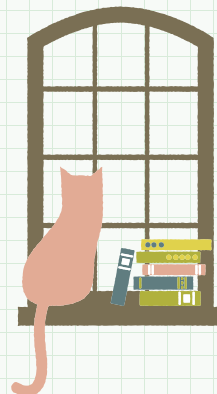
*2 水道水が直接飲める国は、196ヶ国のうち日本を含む9ヶ国のみ。



妄言多謝 第24回

ちいちゃんの弟(二歳半)のおくんがいつからか間欠的に咳をするようになった。医者に診せると、肺や気管支に異状はなく、アレルギー検査を勧められた。猫と出た。ちいちゃんが生まれる前から灰二郎という猫を飼っている。医者はアレルギーが原因で死に至る場合もあるとまで言った。両親は驚いた。子どもの遊び相手としては模範的だった。灰ちゃんは何をされても赤ん坊のすることだと大目に見ていた。性情温和、人見知りせず、場の空気を読む。家族以外の人物が来ると最初に膝に乗り、居心地がよくなければさりげなく降りる。しかしこの灰ちゃんとおくんを離さな

ければならない。家族は心を痛めた。そこでわが家の隣りに住む根っからの猫好きな叔父(父親の弟)が引き取るようになった。前から猫を飼いたいと言っていたのが幸いした。暫くして灰ちゃんは引っ越してきた。とおくんの咳はピタリと止んだ。子どもたちは頻繁にわが家へ来る。徒歩圏である。灰ちゃんが転居してから初めにわが家へ来たとき、家族は窓越しに「灰ちゃ〜ん」灰ちゃんは声の出どころを探しきよるきよるする。首の動きは速い。「こっちだよ灰ちゃ〜ん、あっ、こっち向いたよ」とちいちゃん。灰ちゃんは出窓に跳びあがり、ガラス越しに家族を見つめる。(し)



横浜路地裏日記

YOKOHAMA ROZIURA NIKKI

連載 第23回

文と写真 ● ジャム

「山手お散歩ナビ(横浜市緑の協会)」という12ページほどの小冊子があり、「横浜山手エリアには、・・・西洋館8館と、テニス発祥記念館があり、・・・洋館を巡りながら、季節を感じてみませんか?」と巻頭に書かれている。

西洋館8館とは、山手イタリア山庭園の外交官の家、ブラフ18番館、元町公園のベリック・ホール、エリスマン邸、山手234番館、港の見える丘公園の横浜市イギリス館、山手111番館、山手公園の旧山手68番館のこと



である。花や植物の好きな人、庭の好きな人、建築の好きな人にとっては、リピーターになることは、ま

ず間違えのないところと言

えるのではないか。なにしろ日本には四季がある。

今年の六月初旬に、「花と器のハーモニー」と題された「横浜山手西洋館第21回特別展」が開催されていた。いけばな七流派の家元が彩る洋空間ということで、いけばなと世界各国の食器との競演という内容であり、メディアにもそれなりに取り上げられていたので、ご存じの方も多いかも。

「季節を感じてみませんか?」という優しい誘惑どころではない。豊かさとはなにか、美しさとはどういうことか、生活の質の意味するところはなにか、重い問いかけが次々に押し寄せてくる。いままでのように生きてきたのか、これからのことは? どうするんだ、オレ。

平日にもかかわらず、次々に見学者が訪れていたが、そのほとんどは妙齢のご婦人方である。この言い方にご不満のある方もおられるかもしれないが、その真意は尊敬である。



わたしのベストショット!!
撮影:近藤 美樹さん

横消へりから
水難救助に向かう

コメント

なぜあんなに夢中になったのだろう。小学生の一時期、日本酒の蓋集めにはまっていた。

当時の蓋は栓の部分がコルクで作られており、その栓部分を取り除き、蓋の部分を集めていた。

珍しい蓋を持っていると仲間から羨望の目で見られ、それがまた収集に拍車をかけ、最盛期には何百もの蓋を持っていた。

母の実家である福島に帰省した際、手に入れた「大七」の蓋は自慢の一品であり、仲間にも羨ましがられた。

十数年後、大人になって口にした酒「大七」が、格別であったことは言うまでもない。

大七

オススメイン
今回の推薦者
講習課課長代理兼
防災支援課課長代理
河原伸吾

私の好きな日本酒
当協会事務局員のオススメ
第9回

番外編

編集後記

本誌もお陰様で第60号の発刊となった。「よこはま都市消防」の記念すべき初刊日は、当協会前身の社団法人横浜市火災予防協会の編集した平成21年6月。その内容を見ると、横浜市が新型インフルエンザ対策本部を設置、手洗いやうがい、マスク着用といった感染予防・拡大防止対策の記事。人間の社会が変わっても、大きな自然の仕組みや現象は、この先も当然、続いていくことであろう。(F)

事務局職員の趣味の紹介

私の趣味

No.6 山登り

山登りも治療のうち?・リハビリ登山と温泉 No.2

講習・防災支援課 日比谷幹雄



那須三斗小屋温泉露天
晴れた夜は満点の星

山登りで適度に歩いたら、楽しみは温泉です。この夏私が泊まった山小屋(西穂高岳山荘)は1泊2食14,500円、ビックリです。それなら、私のような病気と付き合いながら山歩きをしている者としては、一日で下山して山麓の温泉で癒されるほうが断然いいです。前号では、「日本三大奇勝」の一端をご案内しましたが、今回は山間の「三つの秘湯」をご紹介します。こちらも「日本三大秘湯」がありますが、何故秘湯に「大」が付くのでしょうか?これでは、秘湯ではありませんね。

上の写真は那須の三斗小屋温泉の露天です。栃木県那須岳の峰の茶屋駐車場から徒歩2時間、歩いてこそこの絶景の露天風呂が待っています。左下は北アルプス山麓安曇野の中房温泉です。とても静かで一人旅の方も多いです。様々な湯があり残雪や紅葉の頃は特筆ものです。右下は尻焼温泉、群馬県の長野原から野反湖に向かう途中にあります。川底から湯が噴き出し、川全体が温泉になっている珍しい野湯です。車を停めて徒歩5分、お越しの際はマナー上水着着用をお勧めします。山裾の孺恋村の道の駅の野菜はとびきり美味しく、

トウモロコシが甘く生で食べられます。写真はみな病気前のものですが、今は余計に温泉療養気分になっています。南会津の湯ノ花温泉民宿では共同浴場文化を味わいました。村の人達は一日の終わり、夕方に共同浴場に入ります。民宿に泊まると4カ所の源泉かけ流し共同浴場に何度も入れ、地元の人達もとても親切です。温泉には最高の秋たけなわです。紅葉を愛でながら湯に浸るには絶好の季節ですね。



中房温泉白滝の湯 源泉数29
内湯・露天で14の湯巡り



尻焼温泉 川が大露天風呂
開放感満点:着替えは車の中で



防火防災 協会におまかせ!

当協会では、事業所の**防災管理点検**を実施しています。

大地震発生時の防災体制の整備を図るため大規模・高層建築物等に対して、防災管理者の選任、地震災害に対応した消防計画作成、自衛消防組織の設置と併せて、防災管理点検報告が義務付けられています。

(※当協会会員の皆様には、ご相談に応じますのでお気軽にお声がけください!)

【義務付けられている建物】

※複合用途の場合は、共同住宅、格納庫等、倉庫部分を除いた規模

対象用途

規模

共同住宅 (5項口)

格納庫等 (13項口)

倉庫 (14項)

以外の全ての用途

①階数が11以上の建物
延面積10,000㎡以上

②階数が5以上10以下の建物
延面積20,000㎡以上

③階数が4以下の建物
延面積50,000㎡以上

④地下街
延面積1,000㎡以上

横浜市防火防災協会 防災支援課 <https://www.ydp.or.jp/consulting/>

TEL 045-714-0929 担当: 滝沢・河原

防火・防災コンサルティング▶



**消防・防災
機器販売**

**消防設備
工事・点検**

**防災用品
販売**

廃消火器の処分は所定の
手続きが必要です。
買い替え・処分は弊社に
お任せ下さい。

《創業71周年》消火器リサイクル推進センター 特定窓口

双信消防設備株式会社
横浜市西区中央1-37-24 ☎ 045-321-1884

横浜油材株式会社

○石油部：重油・軽油・灯油・潤滑油

○洗剤部：クリーニング工場向け洗剤、資材全般
・工業薬品、有機溶剤
(業務用水洗機・ドライ機・コインランドリー設備施工全般)

○工事部：危険物工事設計施工及び解体工事一式

○リサイクル部：中古タンクローリー、中古給油機、
中古コンプレッサー等

〒245-0018
横浜市泉区上飯田町1465-2
TEL 045-803-3508
FAX 045-803-3594
URL： <https://y-yuzai.com/company/>



◆地下埋設タンク・配管の
気密漏洩検査
(一般財団法人 全国危険物安全協会 第14012号)

◆産業廃棄物の処理・再生
各種タンク・ピットの清掃工事
(弊社でリサイクル可能な廃油は買取致します)

《ISO14001認証取得》

三美興産株式会社
〒223-0059 横浜市港北区北新横浜一丁目9番地2
TEL 045(549)3551 FAX 045(548)2102
URL: <http://www.sanbikosan.com/>



消防用設備一式 設計・施工・販売・修理・点検

消火器 漏電警報器
自動火災報知設備 屋内消火栓設備
避難器具 スプリンクラー設備
非常警報設備 誘導灯

株式会社 

東横防災商事

〒226-0016
横浜市緑区霧が丘4丁目2-3-206
☎(045)921-1244
FAX(045)923-0677

地元可愛され

消防設備業 60年


  **横浜型地域貢献企業
横浜市Y-SDGs認証**

横浜市磯子区馬場町1-48 ☎ 0120-963-890

横浜消火器株式会社

創業50年

消火器・消防ポンプ他
各種防災機器の販売
火災報知機他・各種防
災設備の設計施工・点検

 **株式会社 蒲原商会**

横浜市港北区樽町3-1-13
TEL (045) 542-7266 (代)
FAX (045) 542-7252

防火管理者必携!

「消防関係法令集」最新版販売中!

本書の特徴

- 監修／横浜市消防局予防部予防課
- 防火・防災管理の業務を行う上で必要となる消防関係の法令を網羅した実務書です。
- 横浜市火災予防条例も編さんされており、法令、条例、両面の規制が把握できます。

3,100円(税込)
(当協会会員 2,800円)

新たに改正した主な内容

消防法施行令

・第34条、第36条 二酸化炭素消火設備に係る技術上の基準等の見直し

危険物の規制に関する規則

・第1条の6、第25条の6、第48条の3 屋外給油取扱所のキャノピー面積基準の見直し等

横浜市火災予防条例

・第14条の2、第74条 急速充電設備の規制見直し

その他

横浜市火災予防規則、横浜市危険物規制規則



- サイズ／A5
- 重さ／約1,200g
- 発行日／令和5年4月7日

購入方法

①当協会窓口で購入

②宅配を希望 (送料等の御負担をお願いします。)

問い合わせ先

公益社団法人 横浜市防火防災協会

電話 045-714-0920 (総務課)

「横浜市防火防災協会」のホームページにご案内と注文用紙がありますのでご利用ください

横浜市防火防災協会

検索

防犯・防災など地域への発信アイテムをお考えの方は、
 デザインは **(株)ナデック** に
 印刷は **野崎印刷紙器(株)** へご連絡下さい



クリアファイル



ステッカー



防災カルタ

担当営業がまず
 お話を伺います。 hongou@nozaki-print.co.jp まで

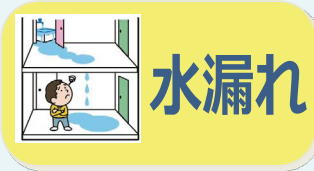
横浜市鶴見区矢向3-15-27 Tel.045-571-3508



神奈川県民のための火災共済

広告

組合員のみなさまが火災等に遭ったとき、互いに助け合う制度です。



など



建物



家財

もしもの事態に備える保障

家計に優しい掛金も
選ばれている理由です！

例えば1,000万円の保障が

マンション等
(耐火構造)
専用住宅の場合

年間掛金

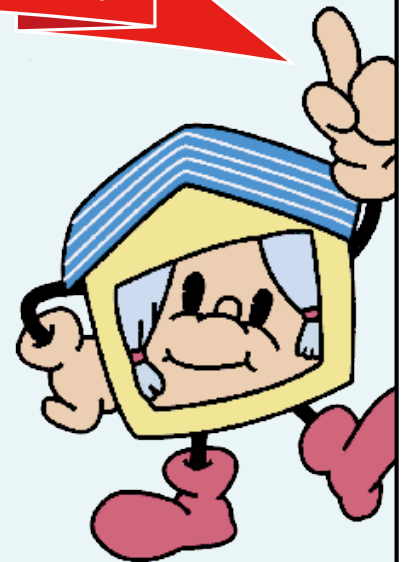
4,000円

木造・準耐火
(非耐火構造)
専用住宅の場合

年間掛金

8,000円

*新規にご加入の際、組合員になっていただくため、100円の出資金が必要です。



〈お問い合わせ・資料請求〉

※広告内容は概要のため、詳細は下記までお問合せください。*イラストはイメージです。

横浜市孤立予防対策協力事業者

横浜市民共済生活協同組合

横浜市中区日本大通58 日本大通ビル8階

0120-073-203

[受付時間] 月~金/午前9時~午後5時(祝日・年末年始を除く)

▼HPからカンタンアクセス!▼

資料請求&
お見積りシミュレーション
はこちら!



これさえあれば、すぐに消防訓練ができる!

冊子 誰でもわかる
消防訓練

DVD 誰でもできる
消防訓練



- A4判
- 32頁
- オールカラー



併せて使えば
さらに
パワーアップ!



- 全17分
- トールケース付

●このDVDのすべての権利は、著作権者に留保されており、これを複製、放送(無線・有線)などすることはできません。
●このDVDは、映像と音声を高密度に記録したディスクですので、DVD対応のプレーヤーで再生してください。

**冊子+DVD
セット**

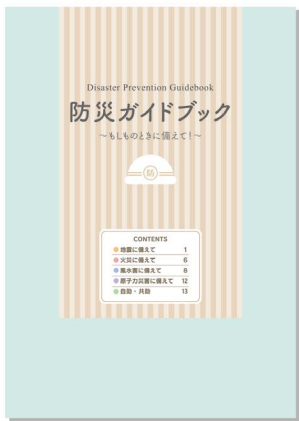
一般財団法人 日本防火・防災協会 / 監修
定価1,100円 (本体1,000円+税10%)

詳細は
こちら!

地震、風水害、原子力災害・・・、
あらゆる災害への対応から日頃行うべき
備えまで、家族の命を守るためのこの1冊!

防災ガイドブック

～もしものときに備えて!～



- A4判
- 20頁
- オールカラー
- 定価187円
(本体170円+税10%)

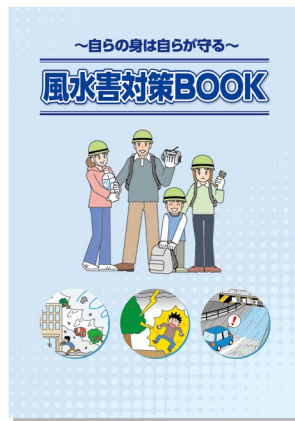
詳細は
こちら!

近年大きな被害をもたらし、多くの尊い命
を奪っている風水害。「自らの身は自らが
守る」ための最初の一步として!

～自らの身は自らが守る～

風水害対策BOOK

●監修 公益財団法人 市民防災研究所



- A5判
- 20頁
- オールカラー
- 定価110円
(本体100円+税10%)

詳細は
こちら!

東京法令出版 株式会社

お申込みは
こちらから インターネットでお申込み
<https://www.tokyo-horei.co.jp/>
(最新情報等もホームページをご覧ください。)

お電話でお申込み ● FAXでお申込み
0120-338-272 0120-338-923
(☎*携帯電話からもお申込みできます。)

公益社団法人 横浜市防火防災協会

〒232-0064 横浜市内南区別所一丁目15番1号 BML横浜ビル2階

URL <https://ydp.or.jp>

FAX 045(714)0921



□ 総務課 TEL 045(714)0920
□ 防災支援課 TEL 045(714)0929

□ 講習課 TEL 045(714)9909
□ 救命講習受付 TEL 045(714)9911